

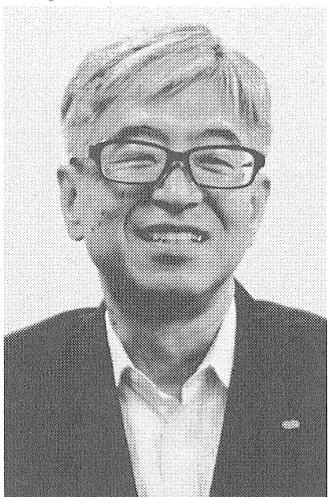
クラウド型
も販売開始

マッピングの可能性

クボタがこれまでの経験を生かした新たなIoTソリューションシステム「KSIS」のサービス提供を開始する中、グループ会社の管総研では、管路管理システム「WATERS」を進化させた「WATERS-Cloud」を4月から販売開始する。これまでのクラウド型のマッピングシステムの登場で、日常の調査点検、災害時の現場立ち会いなど適用範囲が広がる。さらに、IoT化で水量・水圧データまでマッピングシステムで一元的に管理していくことも視野に入れている。クボタグループとしての管総研の戦略を、三好秀幸社長に聞いた。

管総研 三好 秀幸 社長に聞く

これからの維持管理時代には管路の耐震性、老朽度、水理の重要度などを評価する必要がある。クボタグループでは、1980年代から「管路管理システム（マッピングシステム）」をはじめ、「水道配管設計積算CADシステム」「水理解析支援システム」、さらに「マッピングデータを活用した管路評価診断業務」に取り組み、管路評価手法の確立に携わってきた。「当社としては1



990年に川西市さまが導入したのが最初だが、

■更新・耐震化に

一方で、マッピングシステムの可能性が最大限生かされていない現状を指摘する。「給水人口3万人以上の事業体ではマ

理解析にも使える。これからアセットマネジメントや更新・耐震化計画の策定は待たないであり、お役に立てるのではないか」。

今回会上程された水道法改正案では、水道施設台帳の整備を義務付けるなど、保有資産の健全度の把握、あるいはアセットマネジメントに基づく管路更新・財政計画の策定がより一層求められる。同社のマッピングシステムを核としたソリューション展開に期待がかかる。

■一貫受注の強み

管路設計システムでも「今後、更新・耐震化事業が進むにつれ、設計案件も増える。当社のCADシステムで設計し、作成した竣工図の位置ア

さらにIoT化が進展する中、クボタのIoTソリューションシステム

アセット・IoTを軸に

管路更新・耐震化を推進



1月末に京都市で開催した「WATERS Cloud」を

その先鞭をつけていき「クラウドで開発しているサイイノベーションは施工管理情報マッピングシステムに自動連携させることができる。その情報には継手位置など3次元情報も取れる。他企業管との輻輳などの維持管理現場の問題を考えれば、将来的には3次元のマッピングシステムもニーズがあるのではないか」と意気込む。

「KSIS」の中核的システムの一つとして、市場展開を見据えている。「東日本大震災では当社のバックアップデータから紙図面を提供したが、タブレットも大変有効。GPSと連動すれば、その場で図面を読み取ることができる。また、管網上に各種センサーを付ければ、水量や水圧データなどを取得することができ、マッピングシステムで「見える化」できる。

■管総研らしきで

更新・耐震化への活用について「お客さま目線に基づいてお客さま目線をキーワードに挙げる。更新・耐震化はこれからは、お客さま目線に立つて、管路に精通したプロフェッショナルとしての

【三好 秀幸（みよし ひでゆき）氏の略歴】1992年にクボタに入社、水情報システム部開発課長、鉄管事業推進部第3グループ長を経て、2009年に管総研に出向。同社調査研究部長、技術部長、取締役技術統括部長を経て、昨年3月に代表取締役社長に就任。趣味は週1回のリフレッシュとなっているテニス、ランニング、将棋。岡山大学大学院理学研究科修了。1957年12月27日生まれ、大阪府出身。